

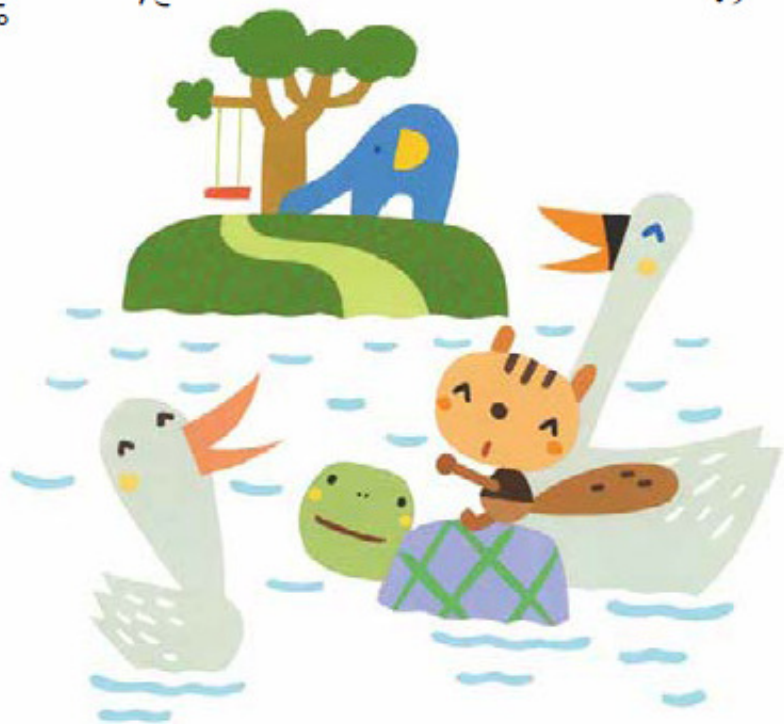
池のほとりで、あひるさんと かめさんと
 白鳥さんが、池の中のしまへ行って、
 あそぶ そうだんを して いました。
 そこへ、りすさんが あそびに 来ました。
 りすさんも、みんなと いっしょに、
 しまへ 行きたく なりました。
 そこで、
 「ぼくも いっしょに つれて 行ってね。」
 と、みんなに たのみました。



「りすさんは、およげないから だめ。」
 みんなが、言いました。
 そして、みんなは 池に入ると、
 しまの方へ およいで 行って
 しまいました。
 りすさんは、一人ぼっちに なって
 しまったので、うちへ 帰りました。
 みんなは しまに つきました。
 しまには、すべり台や ぶらんこが
 ありました。しかし、あそんで
 いても、少しも 楽しく ありません。



かめさんは、
「りすさん、りすさん、ぼくの
せ中に のりなさいよ。」
と、声を かけました。
りすさんは、
にこにこしながら、
かめさんの せ中に
のりました。
かめさんの せ中に のった
りすさんを かこんで、
みんなは しまへ 行きました。



「やっぱり、りすさんが いた ほうが いいね。」
「でも、りすさんは およげないからな。」
白鳥さんと あひるさんが 言いました。
かめさんは しばらく してから、
「うん、いい 考えがある。」
と 言いました。
つぎの 日、りすさんが、池の ほとりへ
行って みると、みんなが あそんで いました。
「りすさん、きのうは ごめんね。」
「今日は、りすさんも いっしょに しまへ 行こうよ。」
白鳥さんと あひるさんが 言いました。

